

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	13-076	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Association between alcohol calorie intake and overweight and obesity in English adults.</p> <p>英国成人における飲酒と体重超過・肥満との関連の検討</p>		
執筆者		
Shelton NJ, Knott CS.		
掲載誌		
Am J Public Health. 2014 Apr;104(4):629-31. doi: 10.2105/AJPH.2013.301643.		
キーワード		PMID
飲酒、肥満、体重超過、英国		24524529
要 旨		
目的：		
<p>飲酒は体重増加のリスク因子であることが報告されている。飲酒由来のカロリー摂取が肥満に与える影響について酒種類別に検討することを目的とした。</p>		
方法：		
<p>Health Survey for England 2006 に参加した成人 8,864 名について、一週間のうち最も飲酒した日の飲酒量から摂取カロリーを算出し、また酒の種類も調査した。体重超過は BMI25 以上、肥満は BMI30 以上と定義した。飲酒由来摂取カロリーに従い 4 分位に区分し、酒種類別に、ロジスティック回帰分析を用いて肥満との関連を検討した。</p>		
結果：		
<p>最も飲酒した日における飲酒によるカロリー摂取量は、一日推奨摂取カロリーの、男性で平均 27%、女性で平均 19%であった。飲酒によるカロリー摂取量が最も低い群と比較して、第 3 位群と最も高い群において、肥満に対するオッズ比は有意に高値であった（それぞれ、オッズ比 1.32、95%信頼区間 1.01-1.72 とオッズ比 1.65、95%信頼区間 1.22-2.22）。体重超過に対しても同様の結果であった。酒種類では、ワインと比較して、ビール、スプリット、多種類の飲酒で、肥満に対するオッズ比の有意な上昇を認めた。</p>		
結論：		
<p>英国成人において、飲酒によるカロリー摂取は、特にビール、スプリットについては、肥満の増加に寄与している可能性がある。</p>		